

## 令和4年度第4回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和4年7月24日（日）9時～10時30分、11時～12時30分の2回

テーマ：夏休みだ 夏の昆虫大集合！

場 所：茨城県霞ヶ浦環境科学センター野外施設（いきもののにわ周辺）

講 師：西元重雄先生、石塚武彦先生（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）

参加者：71名

1回目36名（子供19名、大人17名）、2回目35名（子供19名、大人16名）

担当職員：4名

パートナー：7名

結 果：

この観察会では、センター敷地内のいきもののにわ周辺で、捕虫網を使って昆虫を採集し観察しました。

採集の前に、講師の先生から、捕虫網による昆虫の捕り方、捕れた昆虫の持ち方、採集できそうな主な昆虫についての観察のポイントなどを説明していただきました。

いよいよ採集と観察です。参加者の皆さんは親子で熱心に採集や観察に取り組み、予想以上に、いろいろな昆虫を観察することができ、充実した観察会となりました。参加者が採集した昆虫は、吹き流し（採集した昆虫を入れる筒状の網）に集め、最後に全員集まって、先生に解説していただきました。

1回目、2回目と長時間にわたり、ご指導いただいた、西元先生、石塚先生本当にありがとうございました。

講師の先生に解説していただいた主な昆虫

## 1回目

### ○キリギリス

キリギリスがギーチョンとよく鳴いているが、草に隠れていて姿を見ることは難しい。キリギリスは最近減っている。触角の長さでバッタとキリギリスの仲間は区別できる。触角が短いのがバッタの仲間、触角が長いのがキリギリスの仲間。

### ○クルマバッタモドキ

トノサマバッタとクルマバッタ、クルマバッタモドキは似ているので見分けが難しい。クルマバッタとクルマバッタモドキは後翅に茶色い筋の模様があるが、トノサマバッタにはない。クルマバッタモドキは胸の背部分にくの字の模様があるが、クルマバッタにはその模様はない。

### ○アカボシゴマダラ

特定外来生物に指定されているので、捕って持ち帰ったり、飼育したりすると罰せられるので注意。中国原産のものが日本で繁殖したと考えられ、もともと奄美に分布している在来種とは系統が違ふ。この仲間のチョウは前脚が短く変化しており、4本足に見える。幼虫はエノキを食草とするので、在来のオオムラサキやゴマダラチョウなどに影響を与える恐れがある。

### ○モンキアゲハ

後翅に黄白色の大きな斑紋があるのが特徴。よく似たナガサキアゲハにはこの斑紋や尾状突起がない。

### ○アオスジアゲハ

翅のきれいな水色の紋が名前の由来になっている。幼虫はクスノキを食草とする。南方系のチョウ。

### ○シジミチョウの仲間

シジミチョウの仲間は、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ツバメシジミを見ることができた。

ヤマトシジミとツバメシジミは似ているがツバメシジミは後翅にオレンジ色の斑紋がある。  
幼虫の食草はそれぞれ異なっている。

### ○チョウトンボ

トンボの仲間であるが、ひらひらとチョウのように飛ぶトンボ。一時少なくなったが、場所によっては最近増えてきた。

### ○ショウジョウトンボ

真っ赤なトンボであるが赤とんぼの仲間ではない。ショウジョウはサルを意味し、サルの赤いお尻をトンボの色にたとえた。

### ○シオカラトンボ

体色が青いのがオス、黄色いのがメス、ただし羽化したての未熟なオスは黄色。

### ※トンボのオスメスの見分け方

トンボの腹部は10節からなり、前から2節目のところにひげ状のようなものや突起のようなものがあればオス。ここにオスの生殖器があり、メスはこの部分に交尾して精子を受け取る。トンボは交尾するとき、オスがメスの頭のつけ根を尾部で挟んで連結するので、連結の前がオスで後ろがメス。

### ○オオイトトンボ

センターには水辺環境が多くあるので、イトトンボ類が多く見られる。オオイトトンボが多かったが、アジアイトトンボも見られた。

### ○ノコギリクワガタとコクワガタ

クヌギの根元などにクワガタ類が見られた。ノコギリクワガタは角（顎）が弓なりになって大きい、コクワガタに似た角の小さい個体もあった。ノコギリクワガタの成虫の大きさは、幼虫の時にどれだけ栄養を取ったかで決まり、成虫になってからは成長しない。

### ○ノコギリカミキリ

似ている種にニセノコギリカミキリもいる。触角の節の数が微妙に違う。

### ○ハラビロカマキリ（幼虫）

カマキリの仲間はこのほかオオカマキリやコカマキリをよく見る。カマキリは不完全変態であるということを小学校で学習する。幼虫は蛹にならないで成虫になる。

### ○セミの脱殻

アブラゼミの脱殻を採集できた。この脱殻でオスメスの区別ができる。産卵管のあるのがメス。

2007年、取手市で、クマゼミの脱殻が発見された。クマゼミの鳴き声を聞いてみよう（ボイスレコーダーで聞く）。茨城県でクマゼミの発生が確認できているのは今のところ取手市だけである。

### ○昆虫の分布と茨城県

茨城県はいろいろな生物にとって、分布の南限・北限にあたっていることが多くある。昆虫にとっても、南限・北限にあたるものが多く、クマゼミやナガサキアゲハのように、以前いなかった昆虫が分布を北上させて、茨城で見られるようになった昆虫も多い。

## 2回目

### ○タマムシ

タマムシの体色は、天敵である鳥が嫌がるキラキラした色で、お昼ごろ飛ぶことが多い。

1回目には見られなかったが、11時過ぎの2回目に見られた。

### ○キアゲハ

ナミアゲハと翅の色は似ているが、キアゲハには前翅に黒く塗りつぶしたような箇所がある。

### ○カブトムシ（メス）

今回はメスのみが見られオスは見られなかった。

一般にカブトムシは力の強い昆虫で、樹液争いにおいては、同種どうしでも争うが、体が大きい個体が生存に有利なわけではない。戦いをすれば負けたり、傷ついたりすることもある。小さな個体は、比較的時間の早い夕方に餌場に行き、込み合う夜中を避けるような生活

をしている。

○1回目に解説した昆虫で2回にも解説があったもの

オオイトトンボ、アカボシゴマダラ、クルマバッタモドキ、シジミチョウ類、ノコギリクワガタ、シオカラトンボ、セミの脱殻など

# 第4回霞ヶ浦自然観察会



開会とオリエンテーション



昆虫採集用の三角紙の作り方の説明



昆虫採集と観察



捕らえた昆虫を吹き流しに集める



アカボシゴマダラの説明



トンボの持ち方の説明



トンボの交尾と産卵の説明



セミの脱殻の説明